

チャレンジ!

第6期生 横内 拓幸

「どうしてそんなエグくて、大変なゼミに入ろうと思ったんだよ...」

生活の大半を小野ゼミでの活動に費やしていた私に、サークルでの友達がよくこう尋ねてきた。そのときは、少し恥ずかしくて「わからない...」と曖昧な返事をしていたのであったが、本当のことを言えば、「自分自身の能力を伸ばさせるための最もふさわしい場所に、チャレンジしたかったから...」である。なぜ、入ゼミのときに、<小野ゼミ=自分自身の能力を伸ばさせるための最もふさわしい場所>と思ったのかはもう覚えてはいないのであるが、ただ1つ思うことは、小野ゼミでの生活は、私にとってチャレンジの連続であった。そして、そのおかげで私は2年前と比べて、確実に成長をすることができたと感じている。

大変なゼミ生活を続けていく上でもう1つ原動力となっていたのが、同期の存在である。本当に同期のおかげで充実した2年間を送ることができた。グループワークの時は本気で意見をぶつけて話し合い、飲み会の時はバカみたいに飲んで暴れて...。そのように考えると、小野ゼミでの生活の1日1日が本当に忘れ難い、いい思い出である。初めて取り組んだクリスピークリームのケースやCSRのディベートに始まるゼミ内グループ活動、10ゼミでの諸々の活動や、OB・OG総会の企画運営、卒論の執筆まで非常にたくさんの方にチャレンジをし、仲間に助けられつつ、密な時間を過ごせたと感じている。

また、先生には感謝してもしきれない位、お世話になりました。寝る時間を削ってまで、私の書く稚拙な日本語を添削してくださったり、コンパ会場を提供してくださったりと私たちゼミ生と非常に近い位置で親身になってご指導いただいたことに対して、心から感謝しております。本当にありがとうございました！

最後になりますが、ゼミ活動に関して今まで自分に関係してくれたすべての人に対して感謝したいと思います。



夏合宿（著者は前列中央）

みんな、ありがとうー!!!